

序 言

地球システム・倫理学会会長 伊東俊太郎

地球システム・倫理学会は、2006年2月に創立総会をもち、同年10月には会報第1号を創刊し、2007年12月には第2号を、そして今また第3号を世に出すこととなった。その間、創立大会は麗澤大学で、第2回大会は東洋大学で、第3回大会は山形大学で、第4回大会は文京学院大学で開催し、それぞれ大きな成果を得た。この実現のためにご協力して下さった方々に、この機会をおかりして、心から御礼を申し上げたい。毎回のシンポジウムには素晴らしい識者の方々が参加して下さり、生命・環境・文明・文化の四部会に分かれての研究発表も、興味深く、質の高いものであった。それらはすべて会報に記録されているが、本学会の着実な前進の成果を示している。

われわれはいま、21世紀の初頭に立って、人類と地球の未来を真剣に考え、その在り方を討議し提案すべきときに来ている。地球温暖化をはじめとする環境問題、生物種の絶滅などの生態系の危機、核兵器や生命操作などの科学技術の問題、宗教対立によるテロや暴力の発生など、人類史において未だかつてなかったような難問に直面している。これを克服し、人類の存在を後世に確保するためには、すべてを地球連関において考察し、そのシステムとしての倫理をあらためて構築してゆくことが必要である。その意味において、本学会の存在と活動はますます重要なものとなってゆくであろう。

しかし本学会は必ずしもその会員の数の多さを誇るようなものでなくてもよい。それよりもむしろ、一人一人の会員諸賢が、人類の未来のために働く前衛としての志を同じくして、熱い情熱をもってともに力を合わせてゆくことが大切であると考えている。

本会の発展を祈り、会員の皆様の更なるお力添えをお願いしたい。

2008年11月23日